

## ■ 教員紹介

<b>石井 仁 教授</b> 専門分野：東洋史	
<b>研究内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>漢六朝時代の制度史研究。第一に、後漢から三国にかけての政治・軍事制度の変質過程を、当該時期の在地勢力や非漢民族の活動、および、かれらが抛った自衛自治集落(村場)などとも関連させつつ、研究している。第二に、礼儀制度、とくに重臣に賜与される特別の恩典(殊礼)を手がかりに、当該時期における皇帝権力の在り方について考察を進めている。</li> <li>三国時代史の研究。これまで小説『三国志演義』の影響下、誤解・曲解されることの多かった当該時期の史実や人物像について、歴史学の立場から再検討している。</li> </ol>
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>『曹操－魏の武帝』(単著) 新人物往来社、2000年、増補・文庫版、2010年</li> <li>「虎賁班劍考－漢六朝の恩賜・殊礼と故事」『東洋史研究』第59巻第4号、2001年</li> <li>「渭河流域における村場の基礎的研究」飯島武次編『中国渭河流域の西周遺跡』同成社、2009年</li> <li>「参軍事の研究」『三国志研究』第10号、2015年</li> <li>「汪兆銘から東條英機に贈られた出師表の拓本」『駒沢史学』第91号、2018年</li> </ol>
<b>大城 道則 教授</b> 専門分野：古代エジプト史	
<b>研究内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>古代エジプト第三中間期とそれ以降における異文化の流入とその受容のプロセスを明らかにし、当時のエジプト社会の実態の解明を目指す。</li> <li>古代エジプト文明の象徴であるピラミッドの持つ意味とそれらが建設された理由、そして建設方法などについて、ピラミッドが出現する以前の時期から造られなくなる時期までを視野に入れ、埋葬形態の変遷や社会状況の変容から検討する。</li> <li>古代エジプト文明の形成過程のなかで、人々によって岩壁画や考古遺物上に描かれてきた原始絵画の持つ意味とそれらが後世の文化発展に与えた影響について明らかにする。</li> </ol>
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>『古代エジプト文明－世界史の源流－』講談社、2012年</li> <li>『ツタンカーメン－「悲劇の少年王」の知られざる実像－』中央公論社、2013年</li> <li>『図説ピラミッドの歴史』河出書房新社、2014年</li> <li>『古代エジプト 死者からの声－ナイルに培われたその死生観－』河出書房新社、2015年</li> <li>“Pyramids and Muography: The Development and the Aseismic Structure of Pyramid”, in H. Miyamoto et.al (eds.), <i>Muography: Perspective Drawing in the 21st Century</i>, The University Museum, The University Tokyo 2015</li> </ol>
<b>角道 亮介 准教授</b> 専門分野：中国考古学	
<b>研究内容</b>	中国の初期王朝時代(紀元前二千年紀～前一千紀前半)の政治的な実体とその成立過程を究明することを目的に、中国殷周時代の青銅礼器(彝器)の型式と分布への検討を通じて、中央による支配の正当性や周辺地域での受容のあり方を物質文化から読み解く。さらに、いわゆる「中華文明」がいつ、どのような独自性ととも成立したかについて考古学的な検討を行う。対象とする地域は主に黄河流域の諸文化であり、青銅礼器の製作技術や銘文内容、紋様の意味などにも注目しながら、初期王朝において青銅器が果たした特殊な役割を再評価したい。
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>『西周王朝とその青銅器』六一書房、339頁、2014年</li> <li>「西周時代晋国墓地の研究－晋国青銅器を中心として」、『中国考古学』第7号、143-166頁、2007年</li> <li>「西周時代関中平原における青銅器分布の変化」、『中国考古学』第10号、85-116頁、2010年</li> <li>「西周青銅器銘文の広がり」、『中国考古学』第12号、35-59頁、2012年</li> <li>「西周青銅器銘文からみた祭祀行為の変容」、『中国出土資料研究』第20号、38-67頁、2016年</li> <li>「考古資料からみた龍の起源」、『早稲田大学中国古籍文化研究所編『中国古籍文化研究』上、447-460頁、東方書店、2018年</li> </ol>
<b>菅野 洋介 准教授</b> 専門分野：日本史	
<b>研究内容</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>輪王寺宮と在地社会の分析から、近世における宗教と社会の総体的なあり方の解明を目指す。</li> <li>近世社会における宗教者に注目しつつ、伝承や由緒など、文化史研究の進展を目指す。</li> <li>現在の千葉県市川市を主なフィールドに近世における地域社会(塩浜・開発・金融・宗教)の展開を取り上げ、江戸周辺社会の解明を目指す。</li> </ol>
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>『日本近世の宗教と社会』思文閣、2011年</li> <li>「輪王寺宮の権威と在地寺社の動向」高埜利彦・井上智勝編『近世の宗教と社会2 国家権力と宗教』吉川弘文館、2008年</li> <li>「一九世紀における府中六所宮と武蔵国復興」大石学編『一九世紀の政権交代と社会変動～社会・外交・国家～』東京堂出版、2009年</li> <li>「開発をめぐる言説と宗教施設」『関東近世史論集2 宗教・芸能・医療』岩田書院、2009年</li> <li>「大名の移動と寺社の移転」木村茂光・湯浅治久編『旅と移動～人流と物流の諸相～』竹林舎、2018年</li> <li>「下総台地の開発と寺院・墓域の様相」『駒沢史学』第92号、2019年</li> </ol>
<b>熊本 史雄 教授</b> 専門分野：日本史	
<b>研究内容</b>	日本近代外交史、とくに戦間期(1920～30年代)において日本が展開した「新外交」としての対外政策につき、「史科学的アプローチ」を用いながら外務省における組織的対応の実態を明らかにすることを主に研究している。戦間期の外交史研究は、これまで「ワシントン体制」論、幣原・田中外交、政軍関係などを分析視角として蓄積が進んできた。しかしながら「外務省自体の組織学的分析」については未だ解明されていない。「外務省記録」を構造的に読み解いてこなかったことが要因に挙げられよう。こうした課題を克服すべく、「史科学的アプローチ」による外務省の組織的対応の実態に関する分析を基に、当該期日本外交の実態を解明するよう努めている。さらに近年は、外交官・幣原喜重郎(しではら・きじゅうろう、1872-1951)の伝記研究にも取り組んでいる。
<b>研究業績</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>『近代日本の外交史料を読む』ミネルヴァ書房、2020年</li> <li>『大戦間期の対中国文化外交－外務省記録にみる政策決定過程－』吉川弘文館、2013年</li> <li>『近代日本公文書管理制度史料集 中央行政機関編』(共編著)、岩田書院、2009年</li> <li>『伊藤博文文書 秘書類纂 外交1～14』(第114巻～第127巻)(編集・解題)、ゆまに書房、2014年、2015年</li> <li>「大戦間期外務省の情報管理と意思決定」(『日本史研究』第653号) 2017年</li> <li>「戦間期日本外務省における対中外交の組織的対応－亜細亜局設置の外交史的意義」『国際政治』168号、2012年</li> <li>「大戦間期の外務省と対中文化外交」(学位論文)、博士(文学)(筑波大学)、2012年</li> </ol>

<b>小泉 雅弘 教授</b>	専門分野：日本史
<b>研究内容</b>	江戸東京に視点を据えることにより、「周辺地域」(地域史)「文化と宗教」(文化史)「江戸の『東京』化」(政治史)の3つを切り口として、維新変革の歴史的意義を研究している。幕末維新期を対象とした研究が、近世史と近代史に二分化しているために、明治維新が未曾有の大変革にもかかわらず、ともすれば明治維新特有の歴史像が不鮮明になってしまっているのが現状だろう。そこで、近世と近代を視野に入れながら維新変革の契機・要因を重視し、江戸東京というフィールドを設定することによって、明治維新の歴史像を立体的・多角的に構築したいと考えている。
<b>研究業績</b>	1. 「明治初年東京府の勅・奏任官官員構成」『駒沢史学』第43号、1991年9月 2. 「幕末風刺画とその受容層—近代『世論』形成の一前提として—」『駒沢史学』第53号、1999年3月 3. 「吉田御師『蒼龍隊』の戊辰戦争」明治維新史学会編『明治維新の文化』吉川弘文館、2005年8月 4. 「維新変革と江戸東京」博士(歴史学)学位論文、2006年3月 5. 「幕末維新期における中川番所の機能と『国産改所』計画」江戸東京近郊地域史研究会編『地域史・江戸東京』岩田書院、2008年4月

<b>佐々木 真 教授</b>	専門分野：西洋史
<b>研究内容</b>	1. フランス絶対王政期の軍隊の研究。軍隊と王権の関係や軍隊行政に関して、当時の行政文書を中心に検討を行っている。単なる軍隊制度の研究ではなく、国制史研究の一環として、当時の国制の中に軍隊がどのように位置づけられているのかを検討している。 2. フランス絶対王政期の王権の表象。ルイ14世がヴェルサイユに代表される宮廷や各種の記念碑によってどのように表象されているかを研究している。具体的には、芸術作品(絵画や彫刻、建築物)にルイ14世や彼の戦争がどのように描かれているのかを検討している。 3. 戦争の歴史。歴史のなかで戦争がどのように認識されているのかを、協同研究プロジェクトを実施して研究している。
<b>研究業績</b>	1. 「ルイ14世期の戦争と芸術—生み出される王権のイメージ」(単著、作品社、2016年) 2. 『図説フランスの歴史(増補新版)』(単著、河出書房新社、2016年) 3. 『図説 ルイ14世』(単著、河出書房新社、2018年) 4. 「近代ヨーロッパの探求 12 軍隊」(共著、ミネルヴァ書房、2009年) 5. 『歴史と軍隊—軍事史の新しい地平をめざして』(共著、創元社、2010年)

<b>高田 良太 准教授</b>	専門分野：西洋史
<b>研究内容</b>	1. 中世の東地中海における、ヴェネツィア人と他エスニシティの対立や交流について研究している。具体的には、海外進出したヴェネツィア人と、ギリシア人との関係を政治、社会経済、宗教などの異なる視点から明らかにしようとしている。将来的には、イスラム系諸国家とのヴェネツィアの関係を明らかにすることにも関心がある。 2. 中世のギリシア人のディアスポラについて研究している。ビザンツ帝国は13世紀以降衰退し、知識人や高位聖職者を含む多くのギリシア人が亡命を余儀なくされた。こうしたギリシア人が、西欧における文芸や芸術にいかに関わっていたのかを、14世紀から16世紀までの西欧の各地の文書館史料をもとに跡づけていく。
<b>研究業績</b>	1. 「中世後期クレタにおける教会とコミュニティ」『史林』第89巻第2号、2006年 2. 『ビザンツ—交流と共生の千年王国—』昭和堂、2013年(共著) 3. 「港湾都市カンディアからみた中世後期の東地中海」『歴史学研究』第911号、2013年 4. 「中世クレタにおける見えない「フロンティア」—遺言書からみた都市カンディアの共生社会—」『駒沢史学』第84号、2015年 5. 『コミュニケーションから読む中近世ヨーロッパ史—紛争と秩序のタビストリー—』ミネルヴァ書房、2015年(共著)

<b>瀧音 能之 教授</b>	専門分野：日本古代史
<b>研究内容</b>	古代出雲地域史を研究テーマとしている。出雲の古代史は、単にひとつの地域史ということにとどまらず、日本古代史全体に大きな影響を及ぼすと考えられる。こうした点をふまえて、日本古代史を中央からの視点ではなく、地域からの視座によってとらえ直したいと考えている。また、『出雲国風土記』をはじめとする諸国の『風土記』を基本史料とした説話の研究や出雲神話などの日本神話の研究にも関心を持っている。
<b>研究業績</b>	1. 『古代出雲を知る事典』東京堂出版、2010年 2. 『出雲古代史論攷』岩田書院、2014年 3. 『出雲大社の謎』朝日新聞出版、2014年 4. 『風土記から見る日本列島の古代史』平凡社、2018年 5. 『風土記と古代の神々』平凡社、2019年